

台東区区民憲章策定区民会議
第1回草案作成グループ会議 議事概要

平成18年6月15日(木) 19:20~21:20
台東区役所 901 会議室

1. 各委員案の発表

- ・ 各委員の憲章案とその作成コンセプトについて発表いただいた。

2. 子どもアンケートの集計結果について

- ・ 事務局より、子どもアンケートの集計結果の概略について説明を行った。

3. 討議

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 子どもアンケートの集計結果で、圧倒的に浅草の印象が強いことに驚いている。未来の台東区を支える子どもたちが大切にしていることを重く受け止め、これからの議論を進めて頂きたい。
- ・ 文章を作るのは真剣勝負である。短い時間であるが、本日は、以下の点に留意して議論を進めて頂きたい。
 - 憲章の名称・副題を確定させる。
 - 本文の長さ、表現・形式を確定させる。
- ・ 言葉の重複、連体止めや二重修飾の表現はなくす。
- ・ 声に出して読みやすいように、文章の長さはある程度整える。

子どもアンケートの集計結果について

- ・ 子どもアンケートの集計結果で、上野に比べて浅草の印象が強くなっているのは、三社祭の時期に実施した影響が大きいのではないかと。また、上野は文化施設が多く、子どもにとって連れていってもらう場所という印象が強いのではないかと。
- ・ 最近のタウン情報誌には、上野はほとんど取り上げられないが、浅草は頻繁に取り上げられている。
- ・ 上野が恩賜公園である影響も潜在的にはあるかもしれない。
- ・ 上野の山は住居地域ではないのに対して、浅草は暮らしの場であり、まさに町民文化の中心であることも大きい。

条文のテーマについて

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 条文は、それぞれ均等に議論があったわけではない。例えば、「先人の心を受け継ぐ歴史・文化づくり」は、前文に盛り込むべき内容に思える。また、「緑と水による潤いづくり」は、他の条文と比較すると、これまでの議論量は圧倒的に少なかったと思う。
- ・ 他の3つの条文は、これまで圧倒的に議論が多かったテーマである。そのため、例えば「人情と思いやりによる安心づくり」は2つに分けて表現してもよいかもしれない。台東区の人たちが最も大切にしているものは何か、各条文の順位づけをしていくと、議論しやすいのではないか。
- ・ 台東区の人たちが、緑を大切と思う気持ちは、人間、動物を含めて生きとし生ける者全てを対象とした優しい気持ちの表れではないか。
- ・ 子どもアンケートで「身近な緑などの自然」が第2位と高い回答率となっているのは、環境教育の影響が強いのではないか。近頃、公園や緑で遊ぶ小学生は少なくなっている。
- ・ 緑や自然の話題は、現時点の話か、将来の話をするか、区別して考える必要がある。
- ・ 芭蕉の俳句は、台東区を的確に表現しているが、前文の冒頭で謳うと、地名として捉えられる可能性もあるので、江戸文化の1つとして前文の中に盛り込むことも想定される。前文に歴史・文化を謳えば、本文に「先人の心を受け継ぐ歴史・文化づくり」という条文は必要ないかもしれない。
- ・ 「歴史・文化」は和語ではなく、また使い古された言葉である。そのため、前文で一度「歴史・文化」を表現すれば、本文で繰り返し謳う必要はないかもしれない。本文では、例えば、「たからもの」という表現を用いて、読み手それぞれが自由に解釈できるようにしてはどうか。

憲章の名称・副題について

- ・ 「台東区区民憲章」よりも「台東区民憲章」の方が言いやすい。
- ・ 「台東区民憲章」だけだと、堅苦しい印象があるので副題があった方がよい。区民憲章を作った人も含めて現在台東区に関わる人全てが、これから台東区に関わる人全てに送る思いを伝える表現として、「今日から明日へ」という表現ではどうか。
- ・ グループ会議で出ていた「未来への誓い」「誓いの言葉」や、「約束」「意気込み」といった表現は、「必ずしなければならない」という拘束する感があり、もっと柔らかい表現の方がよい。

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 「今日」「明日」は、それぞれ複数の読み方があり、また、平仮名にすると見映えがよくない。

- ・ 平仮名で「あしたへ」だけにしてはどうか。(一同賛成)
- ・ 「台東区民憲章」の「台東」を「だいとう」と読む区民もいるが、漢字の方がイメージを喚起しやすい。

区民憲章の名称は、漢字の「台東区民憲章」とし、副題は平仮名で「あしたへ」とする。

本文の長さ(文字数)について

- ・ 憲章本文の標準的な文字数が20～25字以内であることを踏まえると、「わたくしたちは～」という主語は、前文でしっかり謳っておけば、条文ごとに繰り返し表現する必要はないのではないか。
- ・ 本文の条文が2行に跨るのは読みづらい。
- ・ 語呂や韻など言葉のリズムがないと、憲章として普及しにくいのではないか。
- ・ 条文の長さは、俳句では短すぎるので短歌の長さを意識した。
- ・ 条文は短すぎると言葉を削ぐ必要性が出てしまい、盛り込みたい言葉を入れることができなくなってしまう。

文末表現について

- ・ 「まちづくり」という言葉は、都市開発や地域開発を想起させる懸念があったので、「まちにします」という表現の方がよい。
- ・ 「地域」という言葉は使いづらいので、様々な意味を含む平仮名の「まち」をどこかに使いたい。

三輪副会長よりアドバイス・補足等

- ・ 委員は、次回までに、各条文30文字ぐらい、「わたくしたちは」という主語は盛り込まないで、文末は「まちをつくります」あるいは、「まちにします」に表現を統一して文案を作成してくることとする。なお、条文数は、五箇条にこだわらなくてもよい。
- ・ 上記の雛形に沿って作成した本文に合わせて、前文も作成してくることとする。

4. その他

- ・ 各委員の文案は、一覧的に整理した方が議論しやすいため、次回開催日(6月20日)の15時までに、ファクスあるいはメールにて企画課まで事前に提出して頂きたい。

以上